

連～想いは連なり広がりゆく～

第4回 島根県高等学校文化フェスティバル

THE 4TH SHIMANE PREFECTURAL HIGH SCHOOL CULTURAL FESTIVAL



「連」～想いは連なり広がりゆく～

第4回島根県高等学校文化フェスティバル

12/19(土)・20日(日)

出雲市民会館 大ホール・展示ホール・ホワイエ

入場無料

主催/島根県高等学校文化連盟
協賛/出雲地区高等学校連盟
協賛/松江地区高等学校連盟
協賛/出雲地区高等学校連盟
協賛/出雲地区高等学校連盟

舞台の部

- 19日(土) 開 場 13:00～
- 開会行事 13:30～
- 第1部 14:00～
青少年赤十字/弁論/吹奏楽
- 第2部 15:25～
合唱/合同合唱(ゲスト:出雲一中合唱部)
器楽・管弦楽
- 20日(日) 第3部 10:00～
演劇
- 第4部 13:00～
日本音楽/放送/自然科学
- 第5部 14:10～
郷土芸能(神楽・太鼓)

展示の部

- 19日(土) 12:30～18:00
- 20日(日) 9:00～15:00
写真/新聞/生活科学/美術・工芸/文芸/書道/
小倉百人一首かるた/社会科学/自然科学/
特別支援学校/華道

会 場 19日(土)・20日(日) 12:30～13:30



笑顔でインタビューに答える藤原義光教育長

感性を磨けば人生が楽しくなる

島根県教育長に聞く

文化フェスティバル開催にあたり、島根県の教育活動全体を統括する藤原義光教育長を、出雲高校新聞部と松江北高校新聞部の合同取材チームが松江市の教育庁に訪ね、文化部の活動や、このフェスティバルに寄せる思いをうかがった。

「高校生の活動 広める機会」

今年の文化フェスティバルは、舞台発表だけでなく、多くの部門の展示も行われる、総合文化祭形式。しかも、土・日開催。高校生の文化活動を県民

の皆さんに知ってもらいたい機会だ。

今年の第3回文化フェスティバルや一昨年の全高総文祭島根大会の際、活動ぶりに私は強く感動した。人生のやり直しが

許されるなら、もう一度高校生にかえって、このような活動をしてみたいと思った。

今年度は昨年以上に高校生の幅広い活動ぶりに触れることができる楽しみにしている。

「生徒数減少の影響 避けがたく…」

島根県の生徒数は残念ながら減少してきている。文化部に所属する生徒数も減少傾向にあり、特に小規模校での傾向が顕著だ。文化活動とスポーツ活動は、学校全体としてまた地域全体としてのバランスが重要。文化部には文化部の良さがある。しっかりと頑張ってもらいたい。

「自分のサブテーマ 持つ」

この夏開催した、数学者 秋山仁先生の講演の中で「高校生の時期は、人生でもっともラッシュアワード」という言葉を聞いた。まさにその通りで、高校時代は、勉強・部活・ボランティアと、いろいろなやりたいことや、やるべきことが重なる時期だから、どれかを選択する



取材を終えて記念撮影

授業で習うことだけが勉強ではない。心の豊かさや伴わず、ただ知識や体力があるというのではいけない。「知」「徳」のバランスが大切だ。知識・体力を身に付けるとともに感性をも育てる高校生を送ってほしい。

文化は、「豊かな心」を育む力を持っている。高校文化活動に熱い工夫を贈る。

「文化部活動は人格形成」

「感性を磨けば人生が楽しくなる。知性を高めれば人生が豊かになる」私の、教育長としてのスローガンだ。文化部の活動も、そういう人格形成をしていく活動だ。

第1部

見つけた!! 島根県高文連のビックリ!!



高文連誌『炬火』掲載の研究論文のテーマにも時代を感じるものがズラリ。昭和28年には「私の考えたまことの平和」「農村における台所改善の状況について」、昭和36年「赤川河谷に於ける集中豪雨について」、昭和55年「くにびき国体と住民」昭和61年「志津見ダム建設計画について」など、テーマからそれぞれの時代に思いをめぐらすことができる。
(島根県高等学校文化連盟発行『島根県高等学校文化連盟 五十年のあゆみ』p102による)

吹奏楽

～出雲高校・大社高校
出雲北陵高校～

様々な音楽奏でる

3名～8名によるアンサンブルを披露。大人気で迫力のある吹奏楽のステージとは一味違う魅力。それぞれの演奏者が息を合わせて奏でる音楽。楽器の編成によって様々な音楽が生まれるアンサンブルの響きをどうぞお楽しみに。

見つけた!! 島根県高文連のビックリ!!



この文化フェスティバルの原型は「高文連オリムピアード」。高文連発足の昭和26年に浜田高校で開催されたと推定されている。『島根県高等学校文化連盟 五十年のあゆみ』編纂時にも遂に資料を見いだすことができずに終わったようだ。そのころの先生や生徒の所持品の中から見つければ、高文連にとって歴史的な大発見だ。

なお、このプログラムの編集に当たった出雲高校新聞部発行『鷹の澤新聞』は昭和24年(1949年)、前身の女学校で22年から発行されていた『鷹の澤タイムズ』を受け継いだものと出雲高校史に記されている。高文連の歴史よりも古い。これには私たちもビックリ!!

青少年赤十字 ～大田高校～

「大田高校JRC部の活動～プルタブ回収について～」



大田高校青少年赤十字 今日発表者の皆さん

人に喜んでもらえる

JRCに入ったのは、聞いたことのない部活だったからとか、友人に誘われたからとかいろいろ。入ってみると、人に喜んでいただける、スタディセンター(全国研修)に参加すると他県の仲間と交流できる、他校と合同で行う大きな活動もできるナド、いいところがたくさん。

プルタブで車椅子

6年前からプルタブを回収し、福祉施設に車椅子を贈る。その活動の中で「気づき、考え、行動した」ことを発表。この発表で県JRC研究大会最優秀賞を受賞し、JRCの代表として発表する。この活動の集大成を見てほしい。



学園祭ではスーパーボールすくいの売上金を募金。その準備に取り組むようすです。

弁論

～石見智翠館高校・益田東高校～

12月9日に行われた県スピーチコンテストで優勝・準優勝に輝き、来年の宮崎大会への出場を決めた2人の弁士、山田さん、小藪さんが登場する。



演題「知ることから」

山田彩花さん(石見智翠館高校1年)
この弁論で自分の思い込みや偏見をこわし素直な気持ちをもって色々なことを吸収していこうと伝えたい。そして、宮崎大会では、自分の思いが一人でも多くの人に伝わるよう、飾らず、気持ちを込めて発表します。



演題「今、私にできること」

小藪咲紀さん(益田東高校2年)
今しか伝えられない「感謝」の気持ちを伝えることが、今すぐ私にできること。いつまでもこの気持ちを忘れないようにしたい。全国大会では、この思いを精一杯伝えるようにがんばります。



三重大会合唱部門で歌う浜田高校合唱部

部

～浜田高校・益田高校・津和野高校～

～ゲスト出演：出雲一中合唱部～



全国高総文祭三重大会で～浜田高校合唱部～

キーワードは歌

練習の難しい3校合同合唱。しかし、息はぴったり。合唱の魅力は、「歌というキーワードで交流ができること」、各校ともに自慢は「学年関係なく仲がよく、言いたいことが言えること」と胸を張る。

最高の歌届ける

3校合同合唱の後、この秋日本一に輝いた出雲市

「Ave Maria gratia plena」	作曲：BUSTO	浜田高校女声
「Veni, veni Emmanuel」	作曲：KODALY	浜田高校混声
「信じる」	作詩：谷川俊太郎 作曲：松下 耕	益田高校・津和野高校・浜田高校合同合唱団
「未来へ」	作詩：谷川俊太郎 作曲：信長貴富	〃
「手紙」	作詞・作曲：アンジェラ・アキ	益田高校・津和野高校・浜田高校・出雲一中合同合唱団
	編曲：鷹羽弘晃	
「魔法使いサリー」	作詞：山本清 作曲：小林亜星 編曲：伊東嘉樹	出雲一中合唱部
「ずいずいずっころばし」	東京地方わらべうた 作曲：間宮芳生	〃
「ていんさぐぬ花」	沖縄わらべうた 編曲：信長貴富	〃
「天使と羊飼」	作曲：ゾルターン・コダーイ 訳詞 大熊進子	〃

立第一中学校合唱部をゲストに迎える。出雲一中合唱部長 井尻菜摘さん(2年)は次のように語る。

「小学校のころから音楽部で歌に親しみ、「歌は楽しい」と知ることができた私は、歌うことにさらに自信をつけたいと思い、中学校ではこの合唱部に入った。部員はそれぞれに考え方が異なり、時には言い合いになったりケンカしたりする中で1つの曲を

つくりあげていくことが、私はとても幸せ。歌を歌うほかにもステージで全力が出せるようにと、メンタル面も強くなれるように、挨拶練習や大会ごとに目標を決める等、いろいろなことにチャレンジしている。3年生が引退し、今日は、1・2年で出る初めてのステージ。私たち1・2年生が今できる最高の歌を届けます」

観客との一体感求め

オープニング・幻想のシーン・かごめの歌を見てほしい。演劇部の良さは、みんなで1つの舞台をつくった後の達成感。たくさんの人に見てもらえて人の輪も広がった。素敵な仲間にも出会えた。今日も、「お客さんと一体になれる舞台を作り上げる」と意気込む。



あの歌の意味は一体・・・。



三刀屋高校演劇部の皆さん

個性豊かな部員たち

みんな個性豊かで仲がいい。入部の動機は「入学時に4年前の作品『三月記』を見て感動したから」「楽しそうだったから」「新しいことに挑戦してみたかったから」と語る。



臨機応変に寸劇仕立ての練習を！



松江商業高校演劇部の皆さん



三重大会の開催部門は何と24部門。珍しいのは、三重県ならではの「熊野古道部門」「茶道部門」。全国高文連には18の部門があるが、吹奏楽・書道・合唱・写真...と数えていって、18全部言えそうな人がどれくらいいるだろうか？ 文化部の活動も奥が深いことが分っていただけでも。

今日のフェスティバルにも20部門が参加している。舞台だけでなく展示も見て、文化部の奥の深さを知っていただきたい。



島根県高文連は高体連創設に遅れること2年、昭和26年(1951年)に誕生。浜田高校から各高校に提案、結成大会が7月20日に大田高校で開かれた。私たち高校生の両親たちのほとんどはまだ生まれていないころのできごとだ。(島根県高等学校文化連盟発行『島根県高等学校文化連盟 五十年のあゆみ』p21による)

「オニんぎよ」
 亀尾佳宏(顧問) 作
 三刀屋高校

演劇

第3部

度胸ほしさに入部

入部のきっかけは「度胸がほしかったから」「本気で演劇がしたかったから」「将来声優になりたい」とさまざまな。今は、「先輩が優しい」(1年生)、「みんなで楽しく活動できる」(2年生)、「照明や音響などの舞台技術を学び習得できた」(3年生)と、演劇部の活動にそれぞれ満足。

基礎練習大切に

毎日基礎練習を30分! みんな仲が良い! みんな本番に強い! それが部活の自慢。今日は、「お客さん全員に『伝わる』舞台」をみせてくれる。

「超正義の人」
 大垣ヤスシ 作
 松江商業高校

～安来高校・松江北高校
松江東高校・出雲高校
益田翔陽高校～

第2



しまねシンフォネット高校オーケストラ (2009.3 プラバホール～松江市～)

熱気溢れる演奏を

しまねシンフォネット高校オーケストラとしてこの曲を演奏するのは、フルオーケでは初めて。10月に松江で抜粋版を演奏。合同練習の回数は少ないが集中して取り組んでいる。今回は熱気溢れるよい演奏になるはず。お楽しみに。

「オペラ座の怪人」セレクション
 作曲：アンドリュー・ロイド・ウェッバー
 編曲：カルヴィン・カスター

みんなで楽しく

どの学校も仲良く練習に励む。安来高校の弦楽部員は「今年で弦楽部は創立10年目。みんな和気藹々と楽しんでいます」と言い、吹奏楽部員は「初めてのオーケストラでの演奏で、どんな音がするのか、すごく楽しみ」と語る。

松江北高校部員も「部員は9人と少ないが、仲良く、集中して練習しています」と部活自慢。また、石見からただ1校参加する益田翔陽高校部員は「外部講師の先生や広島交響楽団の方々の指導を受け技術の向上に努めているが、基本は音楽を楽しむこと。西部から松江や出雲での

器楽・管弦楽
合唱



各校それぞれ練習に励む(益田翔陽高校)

練習に参加するのは大変だが、そんな疲れを見せず、演奏に集中してがんばります！」と力強く語る。

第4部

～益田翔陽高校～

「わらべ唄」 作曲：唯是震一



益田翔陽高校邦楽部の皆さん

難解な奏法に挑む

自分たちの「わらべ唄」を、演奏者一同、息を合わせて楽しく。唯是音楽は難解。でも、難解な奏法に挑戦し、テンポ・強弱・転調に気を配り、作曲者の意図する曲想を尊重しながら演奏。

笑顔絶えない部活

指導者の先生はとても優しく面白く教えて下さる。顧問の先生・部員たちみんな仲がよく、笑顔の絶えない、とても雰囲気の良い部活。県のコンクールや地域の各種の音楽祭など、年間通して発表の場が多いので、益田市内では知られた存在で、地域の方々との交流もさかん。演奏を通して箏の存在を知ってもらえるのが部員の喜び。益田市の方々やグラントワに支えられて活動を行えることに感謝し、全員が技術向上を目指し日々練習に励んでいる。



益田翔陽高校の 練習風景



総合開会式のステージは国際色豊か。三重大会では中国・ブラジル・韓国・ラオスの高校生が演奏や演技を披露。島根大会のときもドイツ・フィリピン・中国・韓国の高校生が出演した。ついでに言うならば、前年度開催県と次年度開催県もステージで発表するので、国際色・地方色豊かな総合開会式と云えよう。

～松江南高校～

「GRADATION
《風の彩(かぜのいろどり)》」
作曲：吉崎克彦



松江南高校箏曲部の皆さん

和・洋のコラボで

この曲は、一絃琴のための作品を、箏・十七絃・尺八の合奏曲に編曲されたもの。尺八のパートをクラリネットで演奏し、和楽器と洋楽器とのコラボレーションに初挑戦。ピッチカート・グリッサンド・トレモロ・ハーモニックスなどの箏の手方で、この曲のさまざまな表情を表現する。

心を合わせて

部活は少人数。だが、部員同士はもちろん、指導者の先生や顧問の先生も親しみやすく、仲良く活動。普段あまり触れる機会のない「日本音楽」に触れ、和楽器の音色や楽曲のすばらしさを感じ取れる部活。みんなで心を合わせて1つの曲を演奏することで、達成感・充実感・喜びを感じられる。新入部員を随時募集中、大歓迎。



第8回県高文連日本音楽部門コンクールで演奏する松江南高校部員

放送



松江北高校放送部の練習風景



今回の文化フェスに出場する5人です。

地域との絆伝える

松江東高校制作の「ホーランエンヤに挑む～12年の時を越えて～」。松江市と東出雲町で12年に一度行われる神事を取材し、制作した。最初は仕方なく『采振り』を始めた吉原さんが地域の方と触れ合っって心境が変化していく様子、近年失われがちな地域の方との絆が描かれている。

魅力は達成感

放送の魅力は完成したときの達成感。また、はっきりとは見えない何かに向かって自分なりに努力したり、工夫を凝らしたりするところに醍醐味がある。どう工夫するか、何を工夫するか、模索する中で考える力もつく。大会で、新しい発想をしたものや、おもしろいつくりをした他校の作品を観る楽しさと放送部員は語る。

放送通して成長

放送部のよいところを、松江東高校川上裕美さんは「読み終えたときに送られる拍手。人が楽しんで聞いて下さっている様子を見ると、良かったと思う」、出雲高校今岡希望さんは「人前で話すことへの恥ずかしさがなくなった。人に伝える喜びに気づくことができた」、松江北高校森谷佳奈さんと有富理奈さんは「声が出せるようになったことで、前に出て司会をしたりできるように成長した」というように、それぞれ挙げた。

伝われ、私の思い

今日の発表への思いは「皆さん」ではなく、1人1人に伝える気持ちで朗読するので、場面を想像しながら聴いてほしい」「自分たちで取材し書き上げた原稿。多くの人に伝わるように丁寧に読む」。今岡さんは、出雲大社が縁結びで有名になった契機を語るのでそこを聴いてほしいと語った。

見つけた!! 全国高総文祭のビックリ!!



左が三重大会のマスコット「みえびい」
右が宮崎大会のマスコット「ハニヤ」

どの会場にも今年のマスコット「みえびい」と来年度開催 宮崎のマスコット「ハニア」が登場。みえびいは、三重県の特産伊勢えびのホッペに真珠がついた欲張りなキャラクター。エビのそっくりかえったスタイルそのまま、やや歩きにくそうな様子がかわいらしく大人気。

ところで島根大会のマスコット「かぐらん」は今? 大役を終え、高文連事務局でぐっすり眠っている。



見つけた!!
全国高総文祭のビックリ!!

高総文祭の多くの部門では開会式前などに生徒交流会が開催される。地元高校生ならではのアイデアで運営される交流会は、参加生徒同士の親睦を深める絶好の機会。島根大会新聞部門では、出雲弁を材料にクイズを作成。出会ったばかりの全国の部員が一気に打ち解けた雰囲気になった。こんな交流会が開催できるのも文化部ならではのこ!



神武天皇(左端)が賊(右)と戦う

地元を支えられ

浜田商業高校郷土芸能部はみんな明るく熱心に練習。地元の浜田商業ファンや神楽ファンなど多くの皆様に支えられていることが自慢。「このフェスティバルでは、伝統芸能『石見神楽』を他校生の皆さんに見てもらい、感動していただきたい。大きな拍手がいただけるように頑張って演じたい。」と語る。

神楽舞うよろこび

入部のきっかけを「幼い頃から親しんでいた石見神楽に興味があり、さまざまな演目が実演できる郷土芸能部に」と語る部員。この部活をやったと思うのは、浜田市内のみならず他地域での公演の機会もいただき



浜田商業高校郷土芸能部の皆さん

多くの皆さんの前で練習の成果を披露できること、そして、楽しく神楽を舞っているときのことだ。

とどろけ、
須佐太鼓

スサノオノミコトと鬼たちが繰り広げるストーリー。目で見、耳で聞いて、楽しめる構成。

須佐太鼓部は、全国大会出場

や海外公演など、普段なかなかできない経験を積んでいる。また、太鼓を通して、仲間と支えあう大切さ、応援して下さる方々への感謝の心も身に付けた。太鼓の迫力と感動を、今日の観客の皆さんにお届けする。



大社高校佐田分校須佐太鼓部の皆さん



基礎打ちの練習に励む

指導者に感謝して

指導者は地域の方々。部活動を通して地域と密接に関わっている。学年を越えて、部員みんなが仲がよいというのも須佐太鼓部の自慢。

大社高校佐田分校
目田鬼面太鼓

作曲：景山道隆

自然科学



雨のいろいろなデータを計測する

～出雲高校～

「出雲高校周辺の大気調査」

先輩からデータ受け継ぎ

「平成2年から10年の大先輩が残してくださったデータと、現在私たちが収集しているデータの比較によって明らかになる島根の大気の実態を発表。苦心したのは多くのデータを整理し、発表時間の12分にうまく収めること。」

結論に近づく面白さ

「雨のいろいろなデータを計測するごとに何かの結論に近づいていく感じが面白い。部活の仲間たちといろいろしゃべりながら活動するときが一番楽しい。」

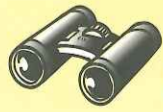


出雲高校自然科学部化学班の活動のようす



見つけた!!
全国高総文祭のビックリ!!

三重大会総合開会式は全てが劇仕立て。若い者たちが集まって「ソープンサイ、ソープンサイ」と何だかにぎやかな伊勢の国を倭姫命(やまとひめのみこと)が偵察に。そこから参加部門全てが何かのかたちで登場するというおもしろい構成だった。来年は宮崎。総合開会式で宮崎代表は「知事も待ちよるよ～」と述べていたが、さて、宮崎はどんな趣向を凝らして全国からの参加者を迎えてくれるのか楽しみだ。



見つけた!!
全国高総文祭のビックリ!!

総合開会式にはなんと皇室が臨席される。昨年の群馬・今年の三重ともに秋篠宮ご夫妻と眞子さまがお越しになった。島根大会の折は、いくつかの部門の視察をされたが、開会式への臨席はなかった。皇室が高校生

の文化に関心を示してくださることは、文化部活動にとって良いことだ。ところで、三重大会開会式前日、大雨の中伊勢神宮を訪れた出雲高校新聞部員。なんだかモノモノシイ気配がと感したが…。後になって分かったが、残念ながら秋篠宮ご夫妻の参拝直後のモノモノシサ。突撃取材はならなかった。



高総文祭総合開会式では島根県の魅力をアピールしました。



倭姫命が伊勢を巡る物語とともに開会式は進みました。

時間・空間切り取る ～写真～

今年8月に行われた第33回全国高等学校総合文化祭に島根県の代表として出品した、次の5点の作品を展示。高校生の感性で切り取った時間と空間をここに。

- 「視線の先に」 春日千歩 (松江北高校)
- 「下町のベッピンさん」 野々内遥 (安来高校)
- 「位置について、よーい」 田中貴大 (益田高校)
- 「対話」 大櫃 望 (安来高校)
- 「どこまでも」 岡田夏美 (出雲西高校)

県代表作を 今日ここに ～美術・工芸～

22年度全国高等学校総合文化祭宮崎大会に出品する島根県代表作品を展示。県代表決定は12月早々。代表に決まったばかりの作品がこの会場に!

元気いっぱい描く ～特別支援学校～

私たち県立養護学校の生徒は、美術の時間に身近な画材で自由に元気いっぱい絵を描いています。私たちの絵をご覧になって、絵を描く楽しさを是非感じ取って下さい。

白と黒の世界 ～書道～

それぞれの作品にそれぞれの表情。筆・墨・紙・運筆・天候・その時の心持ち、諸々のコンディション全てが表れる。白と黒のシンプルな世界をご堪能ください。この秋の書道展で来年度高総文祭への出品が決まったばかりの左の作品を展示します。



入賞作「風砂」と乾貴美子さん(開星高校)

- 「鮫島輝明詩」 金山友紀 (松江南高校1年)
- 「風砂」 乾貴美子 (開星高校2年)
- 「臨樂殺論」 林ゆうこ (大田高校2年)

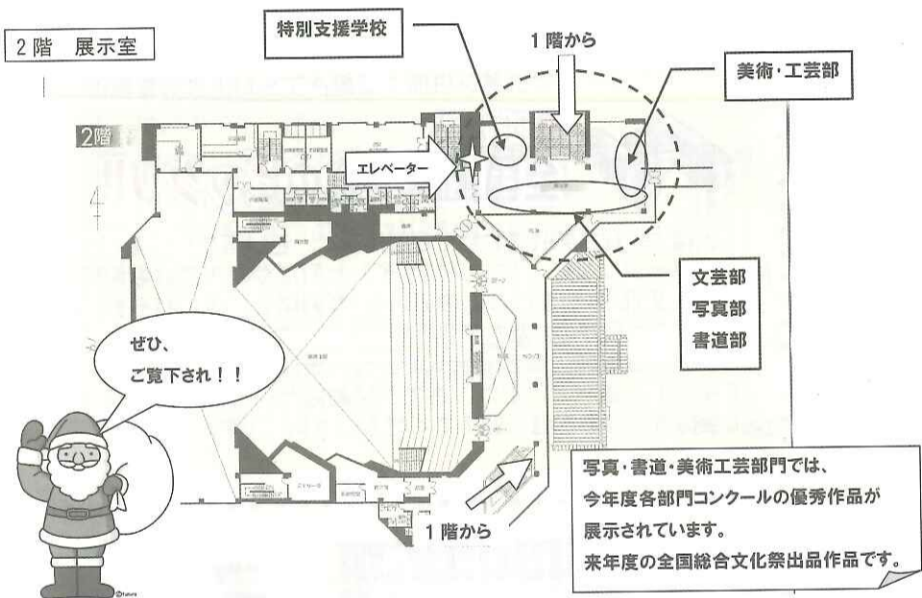


作品名「アキコちゃんのどんぐり狩り」



作品名「私はかみなり」

みどころ



見つけた!! 全国高総文祭のビックリ!!

普段は地味な活動ぶりの新聞部だが、全国高総文祭では毎年大活躍。島根大会の時には、新聞部門を運営するばかりではなく、各部門を取材し6日間に速報新聞6号を発行。県内各会場や主要駅前などで配布し、大会の盛り上げに一役買った。昨年の群馬・今年の三重でも速報新聞が作成・配布された。

謎の発光現象 「スプライト」と 雷の関係を探る ～自然科学～

ポスターによって研究発表するのは松江東高校自然科学部。自然科学部の魅力は、授業では体験できないような活動や多くの研究ができるので、とても良い経験になること。「毎週木曜日を活動日としているが、雷電波用のアンテナは、それ以外の日も集まって作ったので、是非見てください」と、今回の展示のために、部員3人と少ない人数ながら、休まず研究に取り組んだ。「自分たちの知識が少ないためにポスター制作は非常に難航」と語る。

花の個性活かし ～華道～



どんな枝ぶりがいかが検討中
～大社高校佐田分校華道部～

お花を展示し、会場に彩りを添えるのは出雲高校華道部と大社高校佐田分校華道部。出雲高校の部員は4人と少数だが、池坊の先生に来ていただき、主に自由花の指導を受けている。同じ花材を使っても、生ける人によって各自の個性が現れたそれぞれ違う作品になり、面白いなあ毎回思う。また、先生に少し手直ししていただくだけで、花がより生き生きとした素敵な作品になるので、毎回感動する。楽しく活動を続け、卒業後も趣味として、生活を豊かにしていきたい。



試合中は静けさの中に札を取る音が響きます。

競技かるたを紹介 ～小倉百人一首かるた～

かるたには個人戦だけでなく団体戦もある。団体戦ではチームワークを築き、仲間と支えあって戦えることが楽しい。また、1試合1時間以上もかかるので、かるたを通して集中力・精神力・持久力が身に付いたなと感じる。

今回の展示は、かるたが初めての人にも分かってもらえるようにという思いで作成。この展示を見て競技かるたを知り、少しでも興味を持ってもらえたらと思う。



札の暗記時間から真剣です。

手仕事の良さを ~生活科学~

地元藍染を用いた刺し子によるクリスマス&迎春のしつらえ。15cm四方の刺し子、10月の研修会で、生徒約100名ひとりひとりが体験。皆、刺し子は初めて。普段縫い物もあまりないので、時間がかかったが完成。それをつなぎ合わせて大きな作品に仕上げた。古から伝わる手仕事の良さを教えてください。

安来・情報科学・松江北・松江農・開星・大東・出雲・大社・浜田商、9校合同作品。



できあがった刺し子を手に、大東高校生活科学部の皆さん



見つけた!!
全国高総文祭のビックリ!!

鏡山の建造物について ~社会科学~

浜田高校岩崎瑞生さん(1年)は、3年生の引退後、歴史社研部ただ1人の部員として頑張っている。「資料が少なく、調べるのは大変だった。岡本道女と鏡山事件(注:江戸時代中期に浜田藩で起きた事件。後に歌舞伎にもなった。)に注目してほしい」と言い、「今まで知らなかった、地域のことを解明するのは楽しい」と語る。部員で神楽もやっていたという異色の部活。

将棋部門はプロの棋士を招いての指導対局も行われる。今年度の三重大会では、谷川浩司九段他4名が招かれた。その中には、三重県・暁高校3年生で、最年少プロ棋士 澤田真吾四段も。ちなみに19年度の島根大会将棋部門は、この会場隣のウェルシティ出雲で開催。地元大社高校生で女流初段(当時)の里見香奈さんが大盤解説の聞き手として登場、会場は詰め掛けた観客でいっぱいになった。



こつこつと研究に励む浜田高校岩崎さん



新聞は 学校に吹く風 ~新聞~

完成した新聞を手に。1泊2日で仕上げるのは大変です。(2009.5 サンレイクで)

裏方として、仲間の活躍を伝える役割を担う新聞部。簡単そうだが奥は深い。高校総体や球技大会では動く被写体を追いかけて、写真のブレに泣く。ある時はインタビューを断られてがっかりし、ある時は写真掲載を快く受けてもらってにっこりする。写真だって文章だって、ただそこに並べとけばいいってものじゃない。少しでも良いものを、読んでもらえるものと、努力を重ねる。年に2回、合同で行う取材と編集、他校の仲間とチームを組んで競い合い高めあう。成果は着実に上がってきている。

つい先日、安来の足立美術館を取材。5月は守谷刃物研究所。昨年12月は新築の出雲高校に新築であるがゆえの問題はないかと探り、その前は5月に出雲空港を取材。新聞部に入れたからできた経験の数々があることを、そして、その活動のおもしろさを、新聞部員は知っている。合同で作上げた新聞・全国高総文祭の様子・各校の新聞、さ



出雲高校久徴園を管理する先生に取材(2008.12の研修取材で)



守谷刃物研究所研修取材後の班会議・編集作業(2009.5)

まざままのものを展示する。一人でも多くの人に「新聞部がある学校はいいねえ!」と思ってもらえたらうれしい。そして、学校新聞が校内に送り込む「風」を感じてほしい。

お茶を一服どうぞ ~茶道~

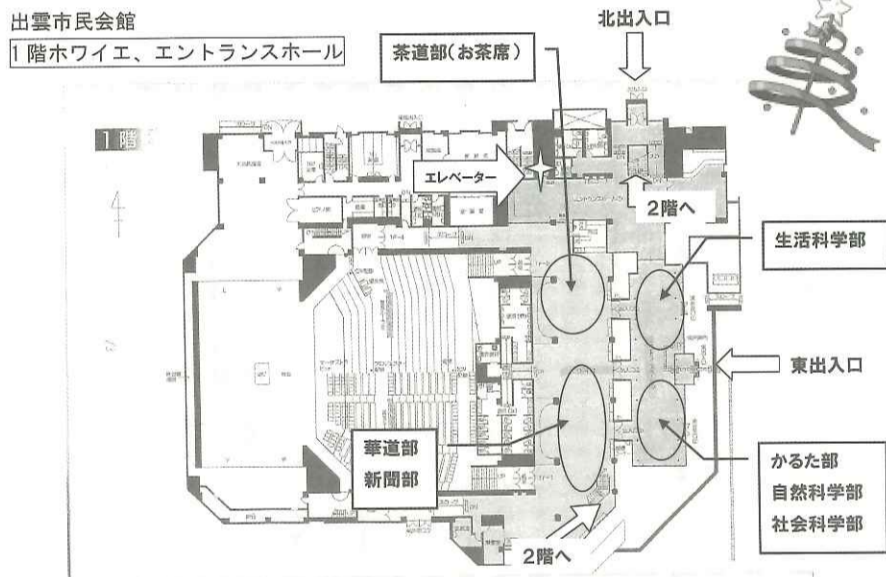
部員は25名の大所帯、清く正しく美しく、礼儀と裏千家のお手前に励む出雲高校茶道部。1年生は、3年生・2年生のきめ細かい指導の下、腕前を上げ、2年生は、部を盛り立て学園祭のお茶席を大成功に。また、講師の先生は、お手前の指導だけではなくお花や掛け軸で季節の移ろいを感じさせてもくださる。今日は会場にいらして下さった皆様様に心を込めてお茶をたてます。



出雲高校茶道部お稽古のようす

展示の

文化フェスティバル展示部門 会場図



文芸コンクール入賞作品を~文芸~

大社・大田・浜田商業・松江南・松江北の文芸部誌を初め、短歌・俳句・詩の、今年度コンクール入賞作品等を展示。「ライバル」と題した小説を書いた吉川理央さん(大田高校)は「中学校時代に実際に経験したことをもとにつくった。実話とフィクションを組み合わせるのが大変だった。ライバルとは何か、それをこの小説で皆さんに伝えられたらと思う」と語る。



作家として活躍中の先輩を囲んで ~大田高校文芸部の皆さん~



見つけた!!
全国高総文祭のビックリ!!

またまた新聞部門の話になるが、昨年の群馬、今年の三重と、新聞部門は参加者のほぼ全員がまとまって宿泊。そのため、夕食の後も自発的に集まって班毎に交流新聞作成作業。その甲斐もあって新聞は翌日の制限時間内に無事完成。また、参加者同士の交流もグッと深まった。

創造は美しい



若山和明 島根県高文連生徒委員

島根県高等学校文化連盟 生徒委員長を務める島根県立出雲高等学校後期生徒会長若山和明さんから、文化部の活動、そして、文化フェスティバルについて、原稿を寄せてもらった。

『文化部』というと、皆さんはどのような活動を思い浮かべるでしょうか。音楽・演劇・郷土芸能・書道といった芸術的なものが先ず頭に浮かぶと思いますが、文化部の幅はもっと広く、放送・新聞・自然科学、また青少年赤十字といった部活動も全て『文化部』なのです。

私の通う出雲高校には、放送・弦楽・演劇・合唱・吹奏楽・自然科学・写真・新聞・美術・文芸・書道・茶道・華道・家庭といった多くの文化部があります。それらの部活に所属する一人ひとりが、部活動の中ですばらしい輝きを見せているのを見受けられます。他校でも、同じような輝きを見せている人がたくさんいることでしょう。また、日本音楽



花田栄治 島根県高文連会長

このフェスティバルは、文化部が主役となって行われる催し。各県の県代表が集うという意味では、運動部における総体以上の一大イベントである。その一大イベントの前に、島根県高等学校文化連盟会長花田英治先生(出雲高等学校校長)が、出雲高校新聞部の取材に応え、文化部活動と文化フェスティバルについて語った。

チャンス作れ、文化部

〜花田英治島根県高文連会長〜

行動起こそう
今の時代、よく目に付くものが人気を得やすい。その意味で、マスコミに取り上げられやすい運動部に注目が集まることが多い。だが、チャンスが少なくても、本当によいものは、うまくチャンスを活かして感動を与えることができる。自分の方からチャンスを作ることができる。文化部も、自

分の方からそれを作る行動を起こそう。
あの拍手忘れない
平成19年度の全国高総文祭島根大会、私は三刀屋高校の校長で、日本音楽部門の会長だった。アスバルでの演奏が今も耳に残る。21年春には、三刀屋高校演劇部が、島根県勢として初めて国立劇場での上演を果たした記



出雲高校校長室で取材に応じる花田会長

念に、県民会館で特別公演を行った。席は満席。演じ終わったときの鳴り止まぬ拍手は、未だに忘れられない。
心に残る
フェスティバルに見る人も、演じる人も、みんな感動してほしい。そして、心に残る、よいフェスティバルになってほしい。
島根県高文連のためにも、文化部活動の未来のためにも、2日間のフェスティバルを良いものにしたいと思ひ、インタビュを終えた。

リュックから想いは溢れ

〜ポスターに寄せて〜 森井 茜(出雲高校美術部)



できあがったポスターを手に、作者の森井さん

このフェスティバルのコピーが、『連く想いは連なり広がりに』だと聞き、何を描けばこの言葉を表現できるだろうかと考えました。『連』から思いつくものを、とにかく紙に書いていたりしました。そうやって書いていく中で私は、未来へ、私と同じぐらいの年代の人たちのこれからへ、希望が溢れていけばいいな、と思いました。そんな単純な理由ですが、そこから、ポスターに描いている、リュックからたくさん溢れ出ているイメージが生まれました。溢れているのは『文化』、ということ、楽器・筆・絵の具・花などです。



森井さんを中心に 出雲高校美術部の皆さん

くと、苦しそうな感じがしますが、自分の中から湧き上がるイメージがリュックの中には納まりきれない、それはむしろ嬉しいこと。ポスターを見る方にそう感じてもらえるといいなと思います。
ポスターを描くことになったとき、いろいろな人の手に渡り、多くの人の目に触れるものということ、きちんとしたものを作れるのか不安でした。でも、周囲の皆さんの助けを借りて描きあげることができました。美術部顧問の北本先生にはたくさんアドバイスをいただきました。美術部の仲間からは応援してもらいました。本当にありがとうございました。

編集後記

文化部も活発に動きまわろう。校内で有名になろう。(近江竜輔) どの部活もすこかったです。(長崎巨将) 人数不足なんて気にせずに、気合いを入れていきましょう。(大谷圭梧) まだ何も分かりませんが、頑張ります。(糸賀淳也) 運動部もすこいが文化部もすこい。(熊河真秀) 文化部最高!! (青木周平)

※お断り：舞台発表・展示ともに、記事写真が締切に間に合わず、掲載できなかった部門があります。また、佐田分校は新型インフルエンザ流行のため残念ながら出演を辞退されましたが、既に編集作業、印刷が進んでいたので、そのまま掲載しています。謹んでお詫び申し上げます。(編集担当/出雲高校新聞部)

見つけた!! 全国高総文祭のビックリ!!

全国高総文祭の演劇・日本音楽・郷土芸能部門で4位以内に入賞した学校は、8月末に東京の国立劇場で行われる「優秀校公演」に出場する。全国で4校ずつしか得られないチャンスだから、野球の甲子園出場よりもすごいことだ。ちなみに三刀屋高校演劇部は第17回優秀校公演(平成18年8月)に「三月記(さんげつき)」で、本県勢として初めての出演を成し遂げ、第19回にも「暮れないマーチ」で出演。第18回には矢上高校の「鹿子原(かねこばら)虫送り踊り」がオープニングで出演している。